

は じ め に

新学習指導要領の全面実施から2年、移行期間も含め、子どもたちに「生きる力」をはぐくむことをめざす教育改革は順調にスタートしましたが、いま改めて、これまでに築いた「新しい器」に「より豊かな内容」を盛りこむことが求められています。

京都市におきましても、今年度をこうした教育改革の質を決定する極めて重要な年と位置づけ、「今を生き、次代を拓く力の育成」という本市教育の最高目標のもと、重点課題に即した9項目について、この一年間、研究を積み重ねてきました。ここに、確かな教育の営みを創造するために実施した調査の結果や、今後の教育課題に応えるために開発し実践した先行的な学習プログラムの成果などをまとめ、刊行することとなりました。

本研究紀要の第一巻では、「確かな力をはぐくむために」をテーマとした研究をまとめました。「理科好きな子ども」を育てるために小・中学校を貫いて取り組んだ理科学習の試み、同じく算数・数学科をとぎれさせることなく、つないで基礎・基本の確実な定着と学びへの意欲を高めることをめざした学習の試み、実践的コミュニケーション能力を高めるために、今注目のタスクを取り入れた中学校英語学習、そして、学習評価の改善の中でも喫緊の課題となっている総合的な学習の時間の評価の在り方の四編の研究成果を掲載しております。

第二巻では、「豊かな心をはぐくむために」をテーマに、ひとりの子どもを大切にするために、学校・家庭・関係機関の連携を築いていった特別支援教育の実践的研究、学校のすべての教育活動を通して取り組んでいくための読書活動計画の開発とその実践、子どもたちの生活の場である地域を生かして道徳の時間を中心に総合単元的な学習として取り組んだ実践、よりよい学習指導の在り方を探るために実施した小学校学級担任に対するアンケート調査結果、そして、京都市の子どもたちの今の姿を明らかにした生活実態基本調査の五編の研究をまとめています。

いずれの研究も、関係各課との密接な連携のもと、今日求められている緊急の教育課題に取り組んだもので、各学校での教育計画作成のための基本的データとして、あるいは教育活動を進める上での実践事例として、生かしていただけるものと思っております。

日々、刻々と変化する激動の時代、教育はその流れをしっかりと読み解きながらも、子どもたちに「生きる力」をはぐくむ営みを不変のものとして邁進していくことが求められています。そうした期待に応えるべく、「一人ひとりの子どもを徹底して大切にする」という本市教育の伝統を継承・発展させ、日々、確かな教育の営みに精励されている先生方のお取組のご参考に供するところが少しでもあればと願いますとともに、忌憚のないご意見をお寄せいただきたく存じます。

最後になりましたが、各研究を進めるにあたり、ご協力いただきました研究協力員及び研究協力校の先生方、並びに関係者の方々に、心から御礼申し上げます。

平成16年3月

京都市総合教育センター
所長 谷口賢司